



Title	デザイン理論 37号 投稿規程/執筆要領/編集後記/ 奥付
Author(s)	
Citation	デザイン理論. 1998, 37, p. 110-111
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52908
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「デザイン理論」投稿規程

昭和37年11月11日改正, 昭和60年11月8日改正,
平成2年11月10日改正, 平成6年7月9日改正

1. 内 容：デザインに関する未発表の論文, 研究報告。
採用, (B)条件採用, (C)不採用とする。査読期間は2ヶ月とする。
2. 投稿資格：本会会員。
3. 採 択：採否及び掲載号については編集委員会が決定する。
5. 執筆要領：別に定める。
4. 査 読：論文については, 編集委員会
が査読者2名に依頼する。査
読結果は編集委員会が本人に
通知する。結果は, (A)無条件
6. 提出期限：論文は随時, 研究報告等は8
月末日。
7. 提 出 先：意匠学会編集委員会。
なお, 以上の規程は, 平成6年7月9日
より発効する。

「デザイン理論」執筆要領

平成6年6月4日 編集委員会決定

1. 原 稿：

原稿は400字詰め横書原稿用紙に横書きとする。

ワープロで作成する場合は, A4大の紙に1行40字, 1頁30行程度で作成すること。査読論文の場合は最終原稿とともに, また, 研究報告等は原稿提出時に, フロッピー(機種, ソフト等を明記)も提出すること。いずれの場合も, 提出に際しては, コピーをとって手元に保存すること。

また, 所定の割付用紙に割り付けを行なって, 原稿とともに提出すること。割付用紙は必要に応じて各自コピーすること。

2. 原稿の分量：

分量は学術論文と研究報告はともに, 図版, 図表, 注などすべてを含めて, 刷上りで, 14頁以内とする。(400字詰め原稿用紙では約45枚である)。紙上発表は8頁以内, 発表レジメは2頁とする。

3. 原稿の構成：

原稿には, 表紙, 本文, 注, および学術論文と研究報告には欧文(原則として英文)要約, キーワードを付すこと。

表紙には, 表題, 著者名(ふりがな付き), 所属機関名を和文と欧文(原則として英文)で書くこと。

欧文要約は, 刷上り1頁とする。語数は約200語。必ず, タイプライターまたはワープロで作成すること。また, できる限り, 当該言語を母国語とする人の校閲をえておくこと。

キーワード(和文および英文)は, それぞれ5語以内とする。

4. 図・表のレイアウトなど：

図版はモノクロームとし, 位置の指定, 大きさ, レイアウト, 必要なトリミングなどはすべて執筆者が行なうこと。レイアウトなどには学会指定の割付用紙で行なうこと。

図版などの著作権の問題があると思われる場合は, 執筆者自身が事前に許可をとっておくこと。当学会は著作権についての責任は負わない。

編集後記

この『デザイン理論』37号がお手元に届く頃は、秋たけなわといった時候だと思う。9月、10月に、立て続けに台風に見舞われるという例年にない天候のせいかな、今年の紅葉はいまひとつという声を聞くが、いかがだろうか。

今号は、学術論文が5編集まり、研究報告1編と合わせて充実した内容となった。学術論文は、いずれも、大会・例会で口頭発表された内容をもとにしている。口頭発表と学術論文との大きな相違点のひとつは、口頭発表が「聞かせる」ものであるのに対して、学術論文は「読ませる」ものであるという点だと思う。当たり前のようだが、この相違は意外と大きい。つまり、口頭発表の場合、自分の論旨を要領よく、効果的に伝えるために、要点を何度も繰り返すなどのパフォーマンスが必要になる。一方、学術論文の方は、当然のことながら明確な論理展開が求められるが、それだけではなく、適正な資料の提示とその有効な利用が求められる。とくに歴史研究の場合は、一次資料にしても二次資料にしても、どれだけの資料を踏まえたうえで論が展開されているか、という点が重要であろう。

論文を読むときに、まず註から目を通す、という人は、少なくないと思う。どのような資料、どのような先行研究が踏まえられているか、ということは、その論文の成否に大きくかかわってくるからである。一方で先端的な事例報告が活発な本学会であるだけに、今後も歴史研究が充実することによって、より実りの多い学会誌になってゆくことを願う。もっとも、事例報告も、発表という形式をとるからには、やはり発表者による何らかの意義付けが必要になってくることは当然であろう。

(吉積・並木)

編集委員

足立裕司	榊原吉郎	佐藤敬二
佐野敬彦	中川早苗	並木誠士
藤田治彦	増山和夫	宮島久雄
吉積 健(委員長)		渡辺 真

デザイン理論 37号

Journal of the Japan Society
of Design, 37/1998

発行日 1998年11月7日

発行 意匠学会

事務局 〒585-8555

大阪府南河内郡河南町東山

大阪芸術大学芸術学部教養課程合同研究室内

TEL 0721-93-3781 (内線3606)

FAX 0721-93-5380

発行者

意匠学会 編集委員会

事務局 〒606-8585

京都市左京区松ヶ崎御所海道町

京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科内

TEL 075-724-7603 FAX 075-724-7629

編集責任者 吉積 健 並木誠士

印刷所 榊北斗プリント社
